

トリウミアカイソモドキ

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

十脚目

Acmaeopleura toriumii Takeda

環境省：該当なし

モクスガニ科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限され、かつ、特殊な環境条件を必要としている。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では玉野市番田で約 15 個体が確認されている。

県外では函館湾、宮城県女川湾（タイプ産地）、三重県志登茂川、和歌山県、大阪府男里川、兵庫県千種川、山口湾、愛媛県肱川、徳島県吉野川・勝浦川、高知県浦戸湾・浦ノ内湾・上ノ加江川、諫早湾神代、鹿児島湾重富海岸、石垣島川平湾から知られている。

生息情報

甲長 4.8mm、甲は丸みを帯びた長方形で、褐色の斑点を散在し、低い板状の隆起で縁取られ、前側縁に歯を欠く。歩脚は細長く、褐色の縞模様を呈する。内湾奥の砂泥干潟において、主としてアナジャコの巣穴の中に寄寓して生息する。玉野市番田の産地では比較的高密度で見られ、貴重な産地として保全が必要であろう。

（福田 宏）



スネナガイソガニ

岡山県：準絶滅危惧

十脚目

Hemigrapsus longitarsis (Miers)

環境省：該当なし

モクスガニ科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では瀬戸内市牛窓町子父雁で 2 個体が確認されたのみである。

県外では厚岸湾、千葉県九十九里浜・小櫃川河口、東京湾三番瀬、三浦半島、浜名湖、山口湾・秋穂湾、熊本県天草永浦、和歌山・広島・徳島・愛媛・福岡・大分各県から知られている。

生息情報

甲長 15mm、甲は四角形、側面は直線的で、前側縁に 3 歯を持ち、表面に短毛が密生する。歩脚は細長く、指節は前節とほぼ同じ長さとなる。内湾の海藻間に見られ、主としてアマモ場や潮下帯の砂底に生息する。本種もマキトラノオガニやトリウミアカイソモドキなどとともに、全国的に記録例の少ない内湾性の種として知られている。牛窓町での 2 個体は大潮干潮時に水際海藻の根元から採集された。

（福田 宏）

